

マタイによる福音書2章1-12 賢者は男も女もイエスを探し求める

クリスマスの前のアドベントの時期にも、第一コリント人への手紙についてのメッセージを続けてきましたが、さすがに今日は、クリスマス当日ですので、クリスマスの物語の聖書箇所に向けていきます。今日の聖書箇所は、4つの福音書の中のたった一つにしか書かれておらず、イエス様の実際の誕生から2年後の非常に興味深い話です。それは、私たちが「博士」と呼んでいる人たちの物語です。この物語は、マタイによる福音書2章1-12節で紹介され、この出来事について語っているのは、弟子であり、この福音書を書いたマタイだけです。今日は、第一コリント人への手紙から離れますが、「博士」の物語には、今までのメッセージで語ってきた福音と宣教についてのメッセージと通底するテーマを見ることができます。福音のメッセージの焦点はイエス・キリストですから、クリスマスの日曜日にこれ以上のメッセージがあるのでしょうか？祈ってから、この信じられないような出来事と、それが宣教に持つ意味を見ていきましょう。

それではマタイによる福音書2章1-2を見ていきます。「¹イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。²ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」英語のESV版で「賢者」、日本語版では「博士」と呼ばれている人々は、ペルシャの天文学者または占星術師であったと考えられています。また、旧約聖書の預言者ダニエルとも関係があります。ダニエル書を読んだことがある人は、この書が預言に満ちていることをご存知かと思えます。まだ、読んでいない人は、ぜひ読んでみてください。ダニエルは、イスラエルがバビロンに占領され、捕虜となってバビロンに連れて行かれたユダヤ人でしたが、ペルシャ帝国で「知者」または「マギ」と呼ばれる人々のグループに名を連ねるようになりました。ダニエル書2章12-13節では、ダニエルと三人の友人たちが、「知者」と呼ばれるグループの一員であったことが書かれています。「¹²王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。¹³この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々は、ダニエルとその同僚たちさえ捜して殺そうとした。」もちろん、ダニエルの知恵は星ではなく神のおかげでありましたが、彼がペルシャの占星術師であったことを考えると、このイエスの時代に現れたペルシャの「博士」たちが、約束のメシアが生まれたとき星が現れるという預言を信じたのは、何世紀も前のダニエルの影響であったと考えることができます。

聖書で「東」と書かれている場合には、一般的に現在のイランのあたりを指すので、この博士たちはペルシャの首都からきたと考えられます。この時代、ペルシャにはパルティア帝国と呼ばれた国家があり、ローマ帝国の攻略できない宿敵であったと言われています。この博士たちは、私たちが考えるような本当の王ではなかったものの、伝統的には王とも呼ばれてきました。その伝統に基づき、「We Three Kings」というクリスマスキャロルがあるくらいです。彼らが王と呼ばれているのは、何度も成就している旧約聖書の預言からきているのでしょう。詩篇72篇10-11節では次のように述べられています。「¹⁰タルシシュと島々の王たちは貢ぎを納めシエバとセバの王たちは贈り物を献げます。¹¹こうしてすべての王が彼にひれ伏しすべての国々が彼に仕えるでしょう。」またイザヤ書60章6節では、「らくだの大群が、メディアンとエファの若いらくだが、あなたのところをおおい尽くす。これらシエバから来るものはみな、金と乳香を携えて、主の誉れを宣べ伝える。」と述べられています。これらの箇所は、イエスに王たちが贈り物を持ってくるということを述べていますが、文脈からすると、キリストが最初に受肉した時、すなわち2000年前の生誕ではなく、再臨の時に王として戻ってくる時のことを語っているように思われます。また、シバの地域やその他の地域は、イスラエルの東ではなく、イスラエルの南にあります。このような点を考え合わせると、マタイの箇所に出てくる人々は「博士」であって、ある地域の王ではないと考えるのが妥当かと思われまます。

この物語にはもう一人、ヘロデ王という人物が関わっています。ヘロデ王はユダヤ人とイドム人（古代エドム地方の出身の人）のハーフで、ローマ帝国と非常に近い関係になり、紀元前37年

にローマ帝国に承認されたイスラエルの支配者となった人物です。彼は、ユダヤ神殿を含む大規模な公共事業を行なったため、ローマ人とユダヤ人の双方から偉大な支配者であると認められていました。しかし、このような彼の業績は、イスラエルの人々に莫大な税金を課し、人々の強制労働を大量に使って成就されたものでした。彼は、年をとるにつれて、自分の人格と王位に対する脅威に対して、ますます偏執的になっていきました。彼は、自分を倒そうとする陰謀を恐れて、数多くの息子や妻、その他親しい人々を死刑にしました。そこで、ローマの敵であるペルシャから、尊敬すべき「博士」が、外国人の支配者であるヘロデ王のもとにやってきて、民の王を探していると言うのです。彼の目には「博士」たちの来訪が脅威として映ったということは、簡単に想像がつくのではないのでしょうか？

この物語の最初の部分で、私たちはこの歴史的記述から受け取るべき、四つの真理のうち、第一の真理を見ます。第一の真理は、イエス様はユダヤ人だけでなく、世界のすべての国から崇拝されるべき存在であるということです。マタイはユダヤ人の読者に向けて、イエスが約束されたメシアであることを説得するためにこの福音書を書いています。興味深いことに、彼はこの福音書を終えるにあたって、ユダヤ人以外のすべての人々にも手を差し伸べるようにという大宣教命令で締めくくっているのです。彼はこのユダヤ人ではない「博士」の話でマタイの福音書を始め、マタイ28章19節から20節の大宣教命令で終えているのです。「¹⁹ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、²⁰わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」マタイの福音書における焦点の当て方は、ルカの福音書における焦点の当て方とは全く異なります。ルカの福音書では、おそらくこの「博士」たちより2年前に、ユダヤ人の羊飼いが最初にイエスを礼拝し、その後、シメオンとアンナが、神殿でイエスを礼拝したことが語られています。つまり、「博士」の物語から語られるクリスマスのメッセージは、ユダヤ人だけでなく、すべての人が、イスラエルで生まれ、育ち、生き、死んだこの子供を通して、神の子であるイエスを礼拝し、神の民の一員となれるという、全世界にとって素晴らしいニュースを伝えているのです。

しかし、この「博士」たちの旅には、様々な出来事があります。それでは、3節に戻りましょう。「³これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。⁴王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。⁵彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。⁶『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」⁷そこでヘロデは博士たちをひそかに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。⁸そして、「行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拝むから」と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。」この物語の中で、次に出てくる登場人物たちはどんな人たちなのでしょう。それは、宗教指導者たちです。祭司長たちは、エルサレムとその近郊にある24の主要な祭司団を率いていました。そして律法学者は、伝統的に聖書を書き写す役割を担っており、旧約聖書の解釈と適用の専門家でありました。聖書がここでいう「エルサレム中の人々」というのは、おそらくエルサレムの人々の生活を支配していた、これらの宗教指導者のことであり、多くの場合、ヘロデ王が個人的に任命した人々でありました。ヘロデ王と敵対する王がもし現れたら、彼らの立場は危うくなっただけに違いありません。

第六節は、ミカ書 5章2-4節を引用しています。「²『ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。』³それゆえ、彼らはそのままにしておかれる。産婦が子を産む時まで。そのとき、彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰る。⁴彼は立って、主の力と、彼の神、主の御名の威光によって群れを飼う。そして彼らは安らかに住まう。今や彼の威力が、地の果ての果てまで及ぶからだ。』」ユダヤ人はみな、この聖書箇所を来

るべき救い主、メシアの預言として受け止めていました。マタイは、メシアがベツレヘムで生まれるということは、ベツレヘムが小さい町ではないことを示すために、「決して」という言葉を付け加えています。これは、イエスが旧約聖書に約束された救い主、すなわちメシアであることを示す預言の成就の一例に過ぎません。また、この箇所は、イエスがどのような支配者であり、将来どのようになるかを示しています。イエス様は羊飼いであり、かつ王です。また、この箇所では、サムエル記上、5章2節の言葉も引用されており、ダビデ王との契約も成就されていることが見えます。サムエル記上、5章2節では次のように述べられています。「これまで、サウルが私たちの王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。主はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる』と。」つまり、この宗教指導者たちは、この聖書箇所を正しく解釈し、イエスがダビデとの約束も果たしたことを示しています。

しかし、彼らがこの聖書箇所を正しく解釈していたという事実は、非常に悲しい第二の真実を私たちに明らかにします。宗教的であることと、神を礼拝すること、従うことは同義ではないのです。神の特別な民であると主張する人々を指導する立場の宗教的指導者、祭司長たちのイエスに対する無関心さに注目してください。旧約聖書の詳細を知らない外国人の求道者たち、つまりこの「博士」たちは、旧約聖書の詳細を知らなかったにも関わらず、宗教指導者たちの代わりにイエスを探し出して、礼拝したのです。これは、非常に皮肉なことです。宗教的指導者はイエスを信じず、神に従って行動せず、ヘロデ王の場合は約束されたメシアを滅ぼそうとまでしたのです。ヘロデは、イエスを知らなかったのではなく、イエスを自分に敵対する王として、憎んでいたのです。だから、「博士」たちに自分も「この子を拝みたい」と嘘をついたのです。あなたは、もしかしたら子供時代から教会で育ち、聖書の答えをすべて知っていても、イエス様を信じ、従っていないかもしれません。イエス様を知ることとは、この宗教指導者たちのように、単に学問的な知識を持つことではありません。「博士」たちのように、救いと礼拝のためにイエスを求めることなのです。

王との面会を終えた「博士」たちは、ベツレヘムに向かって出発します。9節にこう書かれています。「⁹博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。」ここには、彼らはずっと追いかけていた星が先立って進んだと述べられていますが、これ以前に、星が動くという話は出てきませんでした。つまり、この箇所では、超自然的な力の介入によって、星が移動しているのです。彼らが見た天文現象を科学的に説明するために、数多くの説（彗星であるなど）が出されており、それらは興味深いものではありません。しかし、結局のところ、神が「博士」たちのために実施したことは、無関係なのです。ここで、この聖書箇所の第三の真理を示しています。それは、神は御子を知らせ、礼拝させるために、宇宙全てを利用され、動かされるのです。ここでは星でしたが、聖書では、すべての人間に創造主を礼拝し、神との関係を欲するように導くのに、自然は十分であると言っています。ローマ人への手紙1章19~20節では次のように述べられています。「¹⁹神について知りうることは、彼らの間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。²⁰神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。」ここで明らかにされている真実は、預言者たちが聖書で受ける特別な啓示に対して、一般啓示と呼んでいます。

十節でようやく「博士」たちは目的地に着きます。「¹⁰その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。¹¹それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。¹²彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。」この頃になると、イエスの家族は家に住んでいて、この章の残りの部分のヘロデ王の行動から判断すると、もうすでに赤ちゃんではなく、幼児である可能性が高いです。つまり、ヘロデ王は2歳以下の男児を皆殺しにする

よう命令を出しているのです。よって、この出来事はキリストの誕生から数ヶ月後、あるいは数年後のことであると考えるのが自然でしょう。ヘロデ王の邪悪な計画に、最初は気づかなかった「博士」たちですが、神は、「博士」たちの夢の中に現れ、「イエスの情報を持って帰ってはいけない」と警告しています。

もちろん、この「博士」たちについての物語は、彼らがイエスにもたらした贈り物を抜きにしては語れません。聖書には、「博士」が何人いたかは書かれていませんが、この贈り物の数から、3人の賢者という伝承が生まれました。長年にわたって、多くの聖書学者がこれらの贈り物に意味を与えようとしてきました。例えば、金は王としての威厳を、乳香は神としての神聖さを、そして没薬はイエスの十字架の上での死とその埋葬、そしてその復活を表しているという説が有力視されています。しかしここで大切なことは、それぞれの贈り物に意味を見出すよりは、むしろ、これらの贈り物が、王への敬意を表すための高価な贈答品として送られた事実です。当時も今も貴重な金属である金。乳香は、数種類の木の皮から採れる、素晴らしい芳香をはなつ木の樹脂。そして没薬は、アラビアの木から採れる防腐剤で、貴重な香辛料、香水として重宝されたものでした。彼らの贈り物の真意は、この物語に見られる第四の真理にあります。イエスを礼拝するということは、犠牲的な贈り物をも厭わず、キリストに権威と尊厳を喜んで与えるということです。

星が再び現れ、彼らを礼拝と崇拝の対象へと導いたときの「博士」たちの反応に注目してください。それは、本当に純粹の喜びでした。イエス様を礼拝することは、私たちに喜びをもたらすのでしょうか？喜びは、私たちが神を礼拝するときに、神から受け取る贈り物です。また、「博士」たちの礼拝の対象にも注目してください。それはイエス様であって、マリア様ではありません。マリアは神の特別な存在でしたが、神ではありませんでした。すでに亡くなった聖人は、神によって大いに用いられた人々ではありますが、神ではありません。よって崇拝してはいけないのです。この世の救い主として肉体をもって来られた神としてのイエス様こそ、私たちの礼拝の対象なのです。最後に、「博士」たちが捧げた贈り物に注目してください。それは高価なものであり、彼らにとっては代償を伴うものでした。私たちは、神様に何を捧げているのでしょうか？他のことが全て片付いた後のあまりの時間、お金、奉仕の力を捧げているのでしょうか？それとも、私たちは自分の時間の中でベストなもの、お金、贈り物や才能も、礼拝の中で惜しみなく捧げているのでしょうか？

神様は、この「博士」たちをイエスのもとに導くために、あらゆる手段を講じられました。そして、今日も同じように、私たちがイエスを礼拝するようにと願っておられるのです。神は、あなたが救い主を見、あなたが、イエス様を自分の王、自分の主と認めるようにと願っておられます。もしかしたら、今日ここにいる皆さんは、宗教指導者たちと同じような立場にいるかもしれませんが。宗教は持っていますが、イエス・キリストを本当の意味で礼拝してはいないかもしれません。あなたは、イエス・キリストの真の姿を知っていますか？イエス様は、私たちが罪から救うために、完全な人間なられた神です。このイエス様を、あなたの主、救い主として受け入れますか？イエス・キリストを救い主、主として知り、バプテスマに従順であったすべての皆さんには、クリスマスの朝の今日、この主の聖餐式に参加していただきたいと思います。イエス様はかわいい赤ちゃんになるためにこの世に来られたのではありません。私たちの罪を全部背負って、その十字架で苦しみながら、私たちの罪に対する神様の怒りを背負い、死ぬために、この世に来られたのです。私たちはこの晩餐の食事をとることで、イエス様の犠牲を心に刻むのです。もし、イエス・キリストを救い主として知らない方がいらっしゃいましたら、聖餐式への参加を控えて頂きたいと思います。また、親御さんにとっても、お子さん自身の準備ができていない場合は、参加させないことで、この聖餐式の意義を教えていただきたいと思います。私が祈った後、執事がこの聖所の四隅からパッケージ化されたものを出し、その後、皆さんで、一緒に食べ、飲みます。祈りましょう。

Matthew 2:1-12 Wise men (and women) seek Jesus

I know that we have continued our focus on First Corinthians even during the Advent season, but on Christmas Day, I wanted to change it up and look at a specific part of the Christmas story. It is an interesting part of the story that is only told in one of the gospels and takes place up to 2 years after the actual birth. It is the story of the wisemen, as we have traditionally called them. This story is told in [Matthew 2:1-12](#), and only the disciple and gospel writer Matthew actually tells us about this event. While I am going away from 1 Corinthians for today, we see a familiar theme in the story of the wisemen as there are implications for missions and gospel proclamation. Since it Jesus Christ that the Gospel declares, what better focus could there be for Christmas Sunday! Let's pray and then look at this incredible event and the implications it has for missions.

Let's begin reading at Matthew 2:1-2. [Now after Jesus was born in Bethlehem of Judea in the days of Herod the king, behold, wise men from the east came to Jerusalem, ²saying, "Where is he who has been born king of the Jews? For we saw his star when it rose and have come to worship him."](#) These wisemen as the English Standard Version calls them were most likely Persian astronomers or astrologers. There is a connection here to the Old Testament Prophet Daniel. If you have ever read the book of Daniel, and if you haven't I would encourage you to, is full of prophecy. The book tells us before it gets to the Prophecy parts that Daniel, a Jewish captive from Israel when it was taken over by Babylon, became one of the "wisemen" or magi as they were sometimes called in the Persian empire. [Daniel 2:12-13](#) shows us that Daniel and his three friends were part of this group. [¹²Because of this the king was angry and very furious, and commanded that all the wise men of Babylon be destroyed. ¹³So the decree went out, and the wise men were about to be killed; and they sought Daniel and his companions, to kill them.](#) Given how much prophecy that Daniel gave to the Bible, and his identification as a astrologer, although his wisdom was because of God and not the stars, it is possible that it was through his influence centuries later that these wisemen believed that a star would show them his promised Messiah.

Given what we know of what the Bible calls the East, it is likely they came from the area of Iran, which is generally considered the Persian capital. From history, we also know that at this time Persia was known as the Parthian Empire and was the arch enemy of Rome, who never captured her. Down through history, these wisemen have also been called kings, although they were not really kings like we think of kings. And we even have a traditional Christmas carol, "We Three Kings" that is based on that tradition. The tradition probably comes from OT prophecy that this passage has many times been seen to fulfill. [Psalm 72:10-11](#) says, [May the kings of Tarshish and of the coastlands render him tribute; may the kings of Sheba and Seba bring gifts! ¹¹May all kings fall down before him, all nations serve him!](#) And then in [Isaiah 60:6](#) we read, [A multitude of camels shall cover you, the young camels of Midian and Ephah; all those from Sheba shall come. They shall bring gold and frankincense, and shall bring good news, the praises of the Lord.](#) Now, this may be a fulfillment of those prophecies related to kings bringing gifts, but the passages in context seem to be speaking of Christ's return as king at his second coming, not his first incarnation. Also, the area of Sheba and the other areas mentioned are South of Israel not East of Israel. Given the evidence, it is best to continue to think of them as wisemen and not some sort of king of an area.

There is one more person involved in this story and it is Herod the Great. Herod was a

half-Jew, half-Idumean (meaning from the area of ancient Edom), who, through accommodation to the Romans, became the Roman approved ruler of Israel in 37BC. He was known as a great builder of public works (including the Jewish temple) and a shrewd diplomat in his dealings with both Romans and Jews. But he laid oppressive taxes on the people of Israel and used a lot of forced labor from the people to build what he did. As he grew older, he became increasingly paranoid about threats against his person and throne. He had numerous sons, wives, and others close to him put to death because he feared plots to overthrow him. So, we have respected men from Rome's enemy coming to a foreign ruler telling him they are looking for the king of the people that he is "king" of. You can imagine this is not going to end well for someone.

In this first portion of the story we see the First of Four truths in this passage that we should take away from this historical account. **The first truth is that Jesus is to be worshipped not just by Jews but by all nations of the world!** While Matthew is writing to a Jewish audience to convince them that Jesus is the promised Messiah King, interestingly, he bookends Christ's life with Non-Jewish worshippers and a command to reach all people groups, even non-Jews. While he begins his book with these non-Jewish wisemen, he ends with [Matthew 28:19-20](#). ¹⁹Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit, ²⁰teaching them to observe all that I have commanded you. And behold, I am with you always, to the end of the age. This focus by Matthew is very different and intentional from Luke's focus where we are first told about presumably Jewish Shepherds who were the first to worship Jesus, possibly two years before the wisemen and he was worshipped at the temple by Simeon and Anna. So, the message of Christmas told in the story of the wisemen is great news for the entire world, that everyone, not only Jews can come and worship Jesus and be part of God's people through this child who was born, raised, lived and died in the area of Israel! But there is so much more in the events of the wisemen's journey. Let's pick back up at verse 3. ³When Herod the king heard this, he was troubled, and all Jerusalem with him; ⁴and assembling all the chief priests and scribes of the people, he inquired of them where the Christ was to be born. ⁵They told him, "In Bethlehem of Judea, for so it is written by the prophet: ⁶"And you, O Bethlehem, in the land of Judah, are by no means least among the rulers of Judah; for from you shall come a ruler who will shepherd my people Israel."⁷ Then Herod summoned the wise men secretly and ascertained from them what time the star had appeared. ⁸ And he sent them to Bethlehem, saying, "Go and search diligently for the child, and when you have found him, bring me word, that I too may come and worship him." Who are the next group of people we are introduced to in this story? These were religious people. Chief Priests headed the 24 main orders of priests in and near Jerusalem. And the Scribes were traditionally charged with copying Scripture and had become regarded as experts in Old Testament interpretation and application as well. When the Bible says here that Herod was troubled and "**all Jerusalem,**" it probably refers to these religious leaders who dominated life in Jerusalem, and who in many cases were personally appointed by Herod. A rival king would have endangered their position.

Verse 6 is quoting [Micah 5](#) where we read in verses 2 and 4 "But you, O Bethlehem Ephrathah, who are too little to be among the clans of Judah, from you shall come forth for me one who is to be ruler in Israel, whose coming forth is from of old, from ancient days. ...(4) And he shall stand and shepherd his flock in the strength of the Lord" Jewish

people all took this to be a prophecy of the Messiah, the coming Savior. Matthew adds the phrase “**by no means**” as a kind of commentary on the text to show that because the Messiah was born there, it is not a little unimportant city. This is just one example of fulfilled prophecy that shows that Jesus is the Savior, or Messiah, promised in the Old Testament. This prophecy also shows the kind of ruler that Jesus is and will be. He is both shepherd and king. He is also bringing in the covenant with King David here as well by using the language of [2 Samuel 5:2](#) **2 In times past, when Saul was king over us, wit was you who led out and brought in Israel. And the Lord said to you, ‘You shall be shepherd of my people Israel, and you shall be prince over Israel.’** So, these religious leaders were rightly interpreting Scripture which clearly demonstrated that Jesus fulfilled the promise to David as well.

But that means there is a very sad **second truth we see here. Being religious is not the same as being a God worshipper or follower.** Notice the indifference of the chief priests, the spiritual leaders whose leadership also extended to the civil life of those who claimed to be God’s special people. It is very ironic that the foreign seekers, these wisemen, who did not have all these details of the Savior, found Jesus instead of the super-spiritual religious leaders who had been given all the information. They chose to not believe it or act on it, and in the case of Herod, even destroy the promised Messiah. It wasn’t that he disbelieved...he believed and hated Jesus as a rival king. So, he lied to the wisemen about wanting to worship this child. Maybe you were raised in church, you know all the answers from the Bible, and yet you do not truly believe in Jesus. Knowing Jesus is not simply having academic knowledge like these religious leaders. It is seeking him for the purpose of salvation and worship like the wisemen.

After their meeting with the king, the wisemen leave to go toward Bethlehem. In verse 9 we read, **⁹ After listening to the king, they went on their way. And behold, the star that they had seen when it rose went before them until it came to rest over the place where the child was.** I think we have this picture of a moving star they followed the whole way, but before this time, there was no mention of the star moving. But with this verse, it would definitely imply supernatural intervention to accomplish the movement. There have been numerous theories put forth to explain scientifically the astronomical phenomenon that they may have seen (i.e. comet etc.), and while some are interesting, ultimately they are irrelevant to what God did for the wisemen. And this shows us a third truth in this passage. **God utilizes the universe to make his Son known and worshipped.** Here it was a star, but the Bible says that nature itself is enough to make all human beings accountable to their Creator and lead them to want a relationship with God. [Romans 1:19-20](#) says, **19 For what can be known about God is plain to them, because God has shown it to them. 20 For his invisible attributes, namely, his eternal power and divine nature, have been clearly perceived, ever since the creation of the world, in the things that have been made. So they are without excuse.** We call this general revelation as compared to the special revelation we receive in the Bible.

Finally, the wisemen reached their destination in verse 10. **¹⁰ When they saw the star, they rejoiced exceedingly with great joy. ¹¹ And going into the house, they saw the child with Mary his mother, and they fell down and worshiped him. Then, opening their treasures, they offered him gifts, gold and frankincense and myrrh. ¹² And being warned in a dream not to return to Herod, they departed to their own country by another way.** By this time, Jesus’s family was living in a house, and judging by the

actions of Herod in the rest of the chapter is likely a toddler by now. Herod would go on to kill all the boys 2 years and under, so we assume this takes place months or even a couple years after Christ's birth. At first the magi did not recognize Herod's evil plan, so God now warns them in a dream to not return to him with this information.

Of course, any discussion of the wisemen is incomplete without the gifts they brought to Jesus. The number of these gifts is where we get the tradition of three wisemen, although the Bible never tells us how many there were. Over the years, many Biblical scholars have tried to assign meaning to these gifts. Some of the more accepted views are that gold represents the royalty of a king, frankincense represents his deity as God, and myrrh as a burial spice represents his coming death and burial and of course resurrection. More likely, these were simply expensive gifts to pay homage to a king. Gold, a precious metal then and now. Frankincense, a glittering odor filled gum that came from the bark of several types of trees. And Myrrh, a spice from a tree in Arabia used for embalming but also treasured as a valuable spice and perfume. The real point of their gifts is found in the **fourth truth we see in this story. Worshipping Jesus means joyfully ascribing authority and dignity to Christ with sacrificial gifts.**

Notice the wisemen's reaction to having the star reappear, leading them to the object of their worship and adoration – joy! Does the thought of worshipping Jesus bring us joy? Joy is the gift that we receive from God as we worship him. Notice also the object of their worship. It was Jesus, not Mary. Mary was a special servant of God, but she was not God. Saints who have already died were greatly used by God, but they are not God and should not be worshipped. Jesus as God come in the flesh to be the Savior of the world is the true focus of our worship. Finally, notice the gifts. They were expensive and cost them something. The question for us is what are we giving God in our worship? Are we giving him our leftover time, money and strength of service after everything else is taken care of? Or are we deliberate and generous in our worship with our time, our money and our gifts or talents.

God took extraordinary measures to lead these wisemen to Jesus, and he wants you to worship that same Jesus today. He wants to bring you to a place of seeing the Savior and recognizing him as your king and your Lord. Maybe you are here today in the same position as the religious leaders. You have religion, but not a true worshipping relationship with Jesus Christ. Will you see him for who he is? God who became also fully human, so that he could save us from our sins. Will you accept this Jesus as your Lord and Savior. For all those who know Jesus Christ as Savior and Lord and have been obedient in water baptism, we invite you to join us in this Lord's Supper meal today on Christmas morning. Jesus did not come to be a cute baby. He came to die on a cross while taking all of our sin on himself and bearing God's wrath against our sin while suffering and dying on that cross. We remember that sacrifice in this meal each time we eat and drink. If you don't know Jesus Christ as your Savior, I would ask you to refrain from participating. And for parents we teach our children the significance of this meal by not allowing them to participate if they themselves are not ready. After I pray the Deacons will serve the prepackaged elements from the 4 corners of this sanctuary and then we will eat and drink together. Let's pray.